

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	作業療法概論
授業コード	AE102
英語名称	Occupational Therapy Theory
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	舩山 朋子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	作業を使った治療は紀元前から行われていたとされています。作業療法の歴史と現状から、作業療法における自然科学や人文・社会科学側面を理解し、変化し続ける社会に併せ最新の知識・技術をもって実施される作業療法の基盤となる概念について学びます。作業療法の対象者および作業療法士の社会的役割を理解し、対象者の基本的人権を擁護しながら、高い倫理観をもって実践に臨む必要性を学びます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士を目指すうえで必要な作業療法の内容・定義、関連法規、倫理などの概要を、作業療法士としての臨床経験のある教員が講義します。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「人体の構造と機能及び心身の発達、疾病・障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ」を実現するために以下の知識と能力を身につけることが目標です。作業療法士に必要な認知領域・精神運動領域・情意領域における基礎的知識・技術・態度・習慣を身につけます。 ・作業・健康・環境の関係について概説できる。 ・法制度上の作業療法士の定義と活動内容を概説できる。 ・社会における作業療法の位置づけと役割を概説できる。 ・作業療法プロセスおよび作業療法士が活躍する領域と病期を概説できる。 ・作業療法に関連する人権問題と倫理について概説できる。 ・関連法規、コンプライアンス・法令違反について概説できる。 ・作業療法士に必要な認知領域・精神運動領域・情意領域を説明し、基本的行動をとることができる。
計画・内容	1) 作業療法士の役割と責任、職業倫理
授業の進め方	1) 教科書・配布資料を使用し講義を行います。 2) 作業療法について理解を深めるために適宜課題を指示します。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	各項目の練習問題に解説を行い理解度の振り返りを行います。
授業時間外の学修	作業療法や医療福祉の範囲にとどまらず、広く自然科学や人文・社会科学等に関して自ら積極的に学び、作業療法の本質や作業療法士に必要な資質を学際的アプローチの視点も含めて理解・修得して下さい。 ・予習：教科書の該当ページを読み、「この講義を理解するために」を実施する。不明な点をまとめる。 ・復習を行う：授業内容をまとめる。教科書該当ページの「講義を終えて確認すること」を実施する。興味を持った内容について専門教員に質問をする。 予習復習合計15時間
教科書・参考書	【教科書】15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 作業療法概論： 中山書店 2023年初版 【参考書】O T評価ポケット手帳： ヒューマンプレス 2022年第2版
成績評価方法と基準	授業内容別小テスト25%、課題25%、最終試験50%
課題等に対するフィードバック	練習問題やディスカッション内容に関してコメントを返します。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	「リハビリテーション概論」「倫理学B」「哲学」を履修することが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン、オンデマンド、課題学修を組み合わせで実施します。 成績評価方法と基準 ・授業中2回の課題（50%+50%）で評価します。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	作業療法基礎技法学実習
授業コード	AE151
英語名称	Occupational Therapy Skills Theory and Practice
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	大関 健一郎, 黒川 喬介
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	作業療法の具体的手段である各種作業活動の中でも、動的な作業活動（陶芸、木工等）、および静的な作業活動（手工芸など）に関する知識、技術、指導方法を実際に行いながら習得し、それらを分析的に理解し利用できる能力を体得する。そして、作業 - 治療的応用についての基礎知識について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は上記内容について作業療法専門分野で業務に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる、様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる【知識・技能】、科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している【科学的思考力】を実現するために以下の知識や能力を身につけることを目標とする。 1.課題達成に必要な時間配分および実践の計画ができる。 2.課題達成に向け、自らが決めた実践計画（時間配分および実践の手順）をもとに行動できる（計画の修正を含む）。 3.目標とした課題を達成できる。 （知識と理解） 作業を構成する各要素を理解する。道具用具用法を理解する。各作業のもつ特性を理解する。指導法を理解する。物・事の構造的理解ができるようになる。作業を治療に用いる際に、必要となる基本的な知識と技術を習得できる。作業と運動生理機能および心理機能との関係について説明できる。 そのために以下のことを体験学習する。 1.基本的作業工程を体験し理解している。 2.基本的道具用具の特徴を理解し使い方を指導できるようになる。 3.作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる。 4.基礎的な治療的応用を理解している。
計画・内容	1)機織りを利用した作業療法（機掛け調整）（担当教員：大関、黒川） 2)機織りを利用した作業療法（織り中段）（担当教員：大関、黒川） 3)機織りを利用した作業療法（織り終盤）（担当教員：大関、黒川） 4)機織りを利用した作業療法（縮絨）（担当教員：大関、黒川） 5)革工芸を利用した作業療法（設計）（担当教員：大関、黒川） 6)革工芸を利用した作業療法（切り取り）（担当教員：大関、黒川） 7)革工芸を利用した作業療法（穴あけ）（担当教員：大関、黒川） 8)革工芸を利用した作業療法（染色）（担当教員：大関、黒川） 10)革細工を用いた作業療法（レーシング）（担当教員：大関、黒川） 11)革細工を用いた作業療法（金具つけ）（担当教員：大関、黒川） 12)七宝焼きを用いた作業療法（担当教員：大関、黒川） 13)電気工作を用いた作業療法（担当教員：大関、黒川） 14)木工を用いた作業療法（設計）（担当教員：大関、黒川）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	15)木工を用いた作業療法(切り出し)(担当教員:大関、黒川) 16)木工を用いた作業療法(担当教員(調整))(担当教員:大関、黒川) 17)木工を用いた作業療法(担当教員(組み立て))(担当教員:大関、黒川) 18)木工を用いた作業療法(担当教員(組み立て))(担当教員:大関、黒川) 19)木工を用いた作業療法(担当教員(塗装))(担当教員:大関、黒川) 20)針と糸を利用した作業療法 平面(担当教員:大関、黒川) 21)針と糸を利用した作業療法 立体(担当教員:大関、黒川) 22)道具学(担当教員:大関、黒川) 23)総括(担当教員:大関、黒川) 本授業は、基本的には後期月曜日1, 2時限で開講するが、早期臨床実習との兼ね合いで他の時間帯で実施することもある。実際の時間割は、後期開始前に発表する。また、自宅課題(宿題)も複数出す。 (教員職名) 大関健一郎:作業療法士 黒川喬介:作業療法士
授業の進め方	・授業の基本的な進め方 1)各作業の説明(講義)→2)体験→3)作業の特徴、工程、道具用具、理論をまとめたノートの作成 *3)のノート作成は授業外時間での課題とする。 *ノートは指定された日時に提出すること。 *作業体験中、必要に応じてノート作成資料として作業写真をスマホなどで撮ることを許可することがある。 課題ノートおよび課題作品が試験開始までに提出されていることを、基本的に定期試験受験の条件とする。
能動的な学びの実施	体験学習 シラバス内の種目以外にも、自宅での課題がある。
授業時間外の学修	授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。 授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の各作業療法ノートを整理すること。授業時間内に課題終了し出来ない場合は、時間外にアクティビティ実習室を開放するので自習すること。(合計15時間程度)
教科書・参考書	相田盛二:図画工作・美術 用具用法事典 日本文教出版 *特に版はない
成績評価方法と基準	期末試験100%、合格基準点60点(60%)。受験は、課題ノートおよび課題作品が提出されていることを基本的に条件とする。
課題等に対するフィードバック	授業中に質問があった場合、その都度フィードバックを行う。
オフィスアワー	「CampusSquareを参照」
留意事項	必修科目である。1年前期の作業療法基礎技法学から後期の本科目につながっている。前期で作業そのものが有しているこれらの要素を知り、分析して治療的手段として有効に用いる方法を医学的知識・根拠とに結びつけて考えられるようにし、後期本科目ではより複雑な作業を経験して作業・治療の応用についての基礎知識について学習する。 早期臨床実習と本科目が重なるため、別紙で授業進行は指示する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・アクティビティを郵送し自宅で行う。 ・zoomでのオンライン授業と課題学習を組み合わせで行う。 成績評価方法 ・学期末に課題レポートを行う(100%)。合格基準60%以上。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	作業療法評価学
授業コード	AE210
英語名称	Clinical Assessment in Occupational Therapy:Physical Disabilities I
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	黒川 喬介, 大関 健一郎
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	精神障害者を取り巻く歴史的な背景を理解した上で、現代の精神科作業療法の基礎的理論と評価について学習をする。具体的には、作業療法の基本的な視点から、手段 - 目的 - 介入、作業療法の治療機序、作業療法の手順（導入 - 評価 - 計画 - 効果）を学ぶ。学生は、基本的な作業療法の評価の実際についての全体像を理解し、臨床実習への準備をするとともに、3年次の治療学的科目を学習するための基礎知識を得ることを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は上記内容について作業療法専門分野で業務に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。
到達目標	ディプロマ・ポリシー掲げる、作業参加を通じて人々の健康と幸福を促進する作業療法士としての役割や職責を理解している【役割と職責】、様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる【知識・技能】を実現するために以下の知識と能力を身につけることを目標とする。 1、精神科作業療法の歴史、臨床業務の流れ（評価から治療構造）を理解する。 2、日常生活で何気なく行っている言動を、意図を持って行うことができる。
計画・内容	1) 精神科の歴史（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 2) 自己理解、精神分析学（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 3) 来談者中心療法、集団理論、集団評価（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 4) 認知行動療法、SST（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 5) ストレス理論（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 6) 評価の流れと手段（評価から治療計画まで）（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 7) 就労、職業関連（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 8) 社会機能評価（LASMI）（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	9) Rehab（大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 10) 評価から治療計画まで（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 11) 症例研究様式（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 12) 治療目標、ICF（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 13) 日常生活行動評価（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 14) 興味チェックリスト（黒川） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 15) まとめ（黒川、大関） （予習）次回授業範囲の教科書を読んでおくこと（復習）教科書のチェック問題を解くこと 大関：作業療法士 黒川：作業療法士
授業の進め方	板書、配布資料、PowerPoint、動画を使用した授業形式で行う。
能動的な学びの実施	該当しない
授業時間外の学修	授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。 授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること。 （合計30時間程度）
教科書・参考書	1) 長崎重信、作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版、メジカルビュー（2021）
成績評価方法と基準	・定期試験（100％）
課題等に対するフィードバック	授業中に質問があった場合、その都度フィードバックを行う。
オフィスアワー	「CampusSquareを参照」
留意事項	必修科目である。 2年次の本科目では、作業療法の基本的な視点から、手段 - 目的 - 介入、作業療法の治療機序、作業療法の手順（導入 - 評価 - 計画 - 効果）を学び、基本的な作業療法の評価の実際についての全体像を理解する。3年次の臨床実習で実施できるようにするとともに、治療学的科目を学習する上での必要な基礎知識を得ることを目指す。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業方法 ・zoomでのオンライン授業と課題学習、オンデマンド授業を組み合わせで行う。 成績評価方法 ・期末レポート課題（100％）で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	作業療法評価学
授業コード	AE202
英語名称	Clinical Assessment in Occupational Therapy II
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	長谷川 辰男, 小橋 一雄, 澤田 有希
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	身体障害を持つ対象者への作業療法実施に必要な不可欠である作業療法評価を教授する。学生は、障害を理解し、身体障害の理論、概念、用語を学習する。さらに、代表的な検査・測定の目的、意味、具体的な実施技術の知識を獲得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は上記内容について作業療法専門分野で業務に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。それぞれの教員が作業療法士としての臨床経験をもとに講義及び実技をする。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】「科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している。【科学的思考力】」ために、以下を目標とする。 1) 運動器障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。 2) 神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。
計画・内容	1) オリエンテーション / 意識の評価およびバイタルサインチェック 担当：小橋 2) 関節可動域測定 担当：長谷川（上肢） 3) 関節可動域測定 担当：長谷川（手指） 4) 関節可動域測定 担当：長谷川（下肢） 5) 関節可動域測定 担当：長谷川（体幹） 6) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（上肢 - 肩、肘） 7) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（上肢 - 前腕、手指） 8) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（下肢 - 股） 9) 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査） 担当：小橋（下肢 - 膝、足） 10) 機能形態計測 1（四肢長、周径など） 担当：澤田 11) 機能形態計測 2（四肢長、周径など） 担当：澤田 12) 反射および筋緊張検査の評価 担当：澤田 13) 反射および筋緊張検査の評価 担当：澤田

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	14) 脳神経の評価 担当：小橋 15) 呼吸・循環・代謝の評価（呼吸器疾患・循環器疾患の評価を含む）担当：小橋 担当教員 小橋 一雄：作業療法士 長谷川辰男：作業療法士 澤田 有希：作業療法士
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義及び演習を行う。
能動的な学びの実施	学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計60時間程度）
教科書・参考書	教科書：能登真一、山口 昇ら：作業療法評価学 第4版、医学書院 2024、6600円 < PT・OTのための測定評価DVD Series > 3 MMT—頭部・頸部・上肢【第2版】（三輪書店 4600円+税）2016 < PT・OTのための測定評価DVD Series > 3 MMT—体幹・下肢【第2版】（三輪書店 4000円+税）2016 参考図書 新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付] 協同医書出版社 10995円 2020
成績評価方法と基準	筆記試験（50％）、実技試験（50％）
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	前期科目「神経・筋系障害と臨床医学」「内部障害と臨床医学」「骨関節障害と臨床医学」で習ったところの疾病や障害を復習しておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomミーティングおよび課題提出で行う。 成績評価方法の基準 提出課題の内容等により成績評価を行う。(100％)

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	作業療法評価学
授業コード	AE264
英語名称	Clinical Assessment in Occupational Therapy
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	大西 正二
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、発達領域の作業療法の対象となる子どもに使用される評価方法について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	発達障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして講義する。
到達目標	ディプロマポリシーにおける「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基礎的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】」、「科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している。【科学的思考力】」、「人々と良好な関係を築くために話を傾聴し共感することができる。【コミュニケーション力】」に該当する科目である。 カルキュラム・ポリシーにおける「基礎作業療法学や評価学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ」が実現するよう、発達障害領域の作業療法に必要な評価法について理解する。 作業療法評価学 を通し、子どもの作業療法を実践していくために必要な評価法について理解することを目指す。
計画・内容	第1回 オリエンテーション・情報収集（面接／観察） 第2回 運動発達の評価（粗大運動／上肢機能） 第3回 運動発達の評価（反射、反応） 第4回 発達スクリーニング検査（遠城寺式乳幼児分析的発達検査法／DENVER ーデンバー発達判定法ー） 第5回 ADLの評価（WeeFIM／PEDI） 第6回 適応行動の評価（日本版Vineland- 適応行動尺度） 第7回 視知覚機能の評価（フロスティック視知覚発達検査） 第8回 視知覚機能の評価（WAVES） 第9回 知能検査（グッドイナフ人物画知能検査新版／田中ビネー知能検査 ・ ） 第10回 知能検査（WISC - ） 第11回 知能検査（KABC - ） 第12回 感覚統合機能の評価（JPAN感覚処理・行為機能検査）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第13回 感覚統合機能の評価（日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査）
	第14回 感覚統合機能の評価（臨床観察）
	第15回 感覚統合機能の評価（日本感覚インベントリー / 感覚プロファイル）
授業の進め方	パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを適宜使用する。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、必要に応じて実技やグループワークを行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書に該当箇所に目を通しておく。 授業後は、教科書、テキストを関連づけて自分の講義ノートを整理する。 （予習復習を合わせて合計15時間）
教科書・参考書	【教科書】 長崎重信，作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学第3版，メジカルビュー社，2021． 【参考書】 新田収・笹田哲・内昌之，知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド，金原出版，2012． 長崎重信，作業療法学ゴールド・マスター・テキスト作業療法評価学第3版，メジカルビュー社，2022． 笹田哲，イラストと動画で学ぼう！人間発達学，診断と治療社，2023．
成績評価方法と基準	各授業後の小テスト（40％）＋定期試験（60％）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーにおける質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行う。 （各授業後に実施する小テストに質問欄を設ける予定）
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	発達の領域では対象者の発達レベルや障害の原因を正確に評価する必要があります。 作業療法評価学を通して、代表的な評価法について理解しておくことが重要です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1．各授業をオンラインもしくはオンデマンドで配信をする。 2．各授業後に課題を提示する。 成績評価方法と基準 各授業後に提示した課題：100%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	作業療法評価学実習
授業コード	AE265
英語名称	Clinical Assessment in Occupational Therapy Laboratory
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	小橋 一雄, 深澤 敦, 竹嶋 理恵, 長谷川 辰男
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、身体、精神、または生活に「障害を持つ対象者がよりよい生活を送ることを支援するために必要不可欠である作業療法評価の実習を行う。学生は、解剖学、生理学及び臨床医学で学んだ知識や、作業療法基礎評価学に加えて、作業療法評価学 で学んだ検査・測定・分析の目的、意味、および実践技術をもとに演習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は、脳卒中及び骨折、神経難病などの患者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽している。この講義では、身体及び精神、生活の特徴について評価及び治療体験を活かして講義及び実習を行う。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」を学ぶために、以下の3つを目標とする。 1) 対象者の障害に応じた適切な検査・測定法を理解し、目的と意義を説明することができる。 2) 対象者の障害に応じた検査・測定を的確に実施することができる。 3) 対象者に応じて、作業療法評価を適切に実施することが可能になる。 また、医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる
計画・内容	1.2) 協調性の知識と評価 担当教員：小橋 3.4) 姿勢・バランス・平衡 担当教員：小橋 5.6) 臨床における姿勢・バランス・平衡 担当教員：深澤（講義及び実技）小橋（実技） 7.8) 脳血管障害及び外傷性損傷における作業療法評価 担当教員：長谷川 9) 脊髄損傷における作業療法評価 担当：長谷川 10.11) 臨床における脳血管障害、脊髄損傷の評価 担当教員：関谷 12.13) 評価のまとめ 担当教員：小橋 14.15) 事例検討学習1（情報収集） 担当教員：竹嶋 16.17) 事例検討学習2（レントゲン 3DCT 脳画像） 担当教員：竹嶋 18.19) 事例検討学習3（面接 問診） 担当教員：竹嶋 20.21) 事例検討学習4（評価測定） 担当教員：竹嶋

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	22.23) 評価のまとめ 担当教員：竹嶋
授業の進め方	1) スライド、配布資料、教科書を用いて講義を進め、代表的な検査・測定・分析について指導する。 2) 具体的な実施技術を獲得するため、随時、各種検査・測定・分析法の実技を行う。 3) 事例検討学習では、作業療法協会のDVDを用いて臨床推論できるよう学習する
能動的な学びの実施	授業は、個人ワーク、ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブラーニングを用いて、検査技術、評価の視点を身につけていく。対面型授業ができない場合には、課題資料、参考動画などを用いて学習する。
授業時間外の学修	事前に授業で行う範囲について教科書などを基に予習しておくこと（毎回1時間）。 また授業後の復習は、教科書や授業で配布した資料をもとに、翌日と一週間後に行うこと（毎回45分）。
教科書・参考書	【教科書】 標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院 5985円）2017 【参考書】 作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学（協同医書出版社）2009 作業療法評価学 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト（メジカルビュー社）2015
成績評価方法と基準	筆記試験(100%)により評価する 評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度による。 遅刻・早退・欠席をする場合には、事務室にある理由書に記入し提出すること。 理由書のない遅刻・早退は欠席となる。
課題等に対するフィードバック	基本的には全体的な総評をメールなどを通してフィードバックするが、必要に応じて、個人に対して直接フィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照のこと。
留意事項	本科目では、臨床医学系科目や作業療法基礎評価学等で学習した関連科目をもとに、臨床現場や実習に即した作業療法の評価や思考過程を学ぶ。 また、機能障害の測定技術や解釈のみでなく、障害が生活や健康に及ぼす影響までを含めた患者の全体像を捉え、評価を選択できるよう思考過程を身につける。 この授業では、主体的に学び、積極的に発言し、他者と協力しながら学習を深めることが求められます。特に、作業療法教育では、認知領域（知識）、情意領域（態度）、精神運動領域（技術）の習得が不可欠であり、これら3つを意識して受講してください。 本授業は、すべての学生が学びやすい環境を維持しながら進行します。そのため、互いの学習を尊重し、積極的かつ協調的な姿勢で取り組むことが期待されます。授業内での発言や行動は、自身の理解を深めるだけでなく、他の受講生の学びにも影響を与えることを意識し、責任をもって参加してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業の場合 【授業の進め方】 1) ZOOMなどオンラインシステムを活用して、スライド、配布資料、教科書を用いて講義を進め、代表的な検査・測定・分析について指導する。 2) 実施技術を獲得する場合は、可能な検査については、オンライン授業で実施するが、不可能な検査については対面化のとなった時点で集中講義などとして実施する場合がある。 3) 学習の最後にgoogleフォームに回答する。 成績判定 対面型授業が不可能な場合には、課題の提出状況（20%）と期末試験の結果（80%）で成績を判定する。 なお、課題が当日提出されない場合は、欠席扱いとする。期末試験は、googleフォームを用いて行う。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	生活活動論基礎
授業コード	AE204
英語名称	Foundation of Abilities of Daily Life
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	竹嶋 理恵
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	日常生活活動（ADL）の基本的概念を理解し、作業療法士の役割および他職種との連携方法について学習する。日々繰り返される基本的な活動と、社会参加や余暇活動等、対象者により多種多様に異なる活動・生活様式に対する基本的な評価・訓練等の援助方法を学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士として臨床経験のある教員が、実務経験に基づき生活活動に対する作業療法支援の方法について講義する。
到達目標	本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の4つを目標とする。 1) 日常生活活動の概念と範囲について理解し説明することができる。 2) 各生活活動の構成要素を述べ、作業を分析することができる。 3) 生活活動に関する作業療法評価と支援の概要を説明することができる。 4) 生活活動に関する作業療法評価と支援の立案を実施する能力を身につける。
計画・内容	1) 日常生活活動とは 2) 日常生活活動の評価 3) 日常生活活動の支援法 4) 日常生活活動の観察と記録 5) 日常生活活動の支援（起居） 6) 日常生活活動の支援（移動） 7) 日常生活活動の支援（食事） 8) 日常生活活動の支援（整容） 9) 日常生活活動の支援（更衣） 10) 日常生活活動の支援（排泄） 11) 日常生活活動の支援（入浴） 12) 日常生活活動の支援（睡眠・栄養・身体活動） 13) 日常生活活動の支援（家事・その他の活動）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	14) 日常生活活動の支援（コミュニケーション） 15) まとめ
授業の進め方	1) スライド、配布資料、教科書・動画等を用いて講義を行う。 2) 理解を深めるために、必要に応じて演習を行う。 3) 具体的な評価と支援方法について理解を深めるために、随時課題を与える。
能動的な学びの実施	生活活動における評価と支援について理解を深めるために、必要に応じて演習を行う。
授業時間外の学修	・授業前にあらかじめ教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと。 ・授業後に教科書、配布資料を確認し、講義ノートを整理すること。 ・生活活動に関する作業療法の基本的知識についてまとめること。 合計60時間程度
教科書・参考書	【教科書】 小川真寛・白井はる奈編著 最新作業療法学講座 日常生活活動（ADL）（医歯薬出版）2025年 【参考書】 濱口 豊太 編集 標準作業療法学専門分野 「日常生活活動・社会生活行為学」 第2版（医学書院）2022年 柴 喜崇 下田 信明 編集 PTOTビジュアルテキストADL 第2版（羊土社）2021年 伊藤 利之 ほか 編集 新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際（医歯薬出版）2020年 木之瀬隆 編集 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「日常生活活動学（ADL）」改訂第2版（メジカルビュー社）2022年
成績評価方法と基準	授業で提示する課題や小テスト30% + 定期試験70%により評価する。
課題等に対するフィードバック	学生の発表や質問の都度、コメントを行う。 授業の中で提出された課題へのフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	本科目は必修科目です。 後期の「生活活動論応用」に続きます。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業を実施する。 成績評価方法と基準 授業中に提示する課題や小テスト50% + 定期試験に代わるレポート50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	生活活動論応用
授業コード	AE266
英語名称	Application of Activities of Daily Living Theory
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	竹嶋 理恵
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	生活活動論基礎から引き続き、日常生活活動に対する援助方法を修得する。疾患別・対象者別に実践的で具体的な評価・訓練等の援助技術を修得する。疾患別の治療原理を鑑み、各種日常生活活動の評価・訓練・援助方法の知識と技術を総合的に学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士として臨床経験のある教員が、実務経験に基づき生活活動に対する作業療法支援の方法を説明する。
到達目標	本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の3つを目標とする。 1) 対象者の心身機能・生活活動・環境の関係を説明することができる。 2) 対象者の心身機能・生活活動・環境に応じた、適切な作業療法評価・支援計画を立案し、実施すること
計画・内容	1) オリエンテーション / 生活活動に対する作業療法の実践法 2) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（評価と記録） 3) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（事例検討） 4) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（報告と討論） 5) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（まとめ） 6) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（評価と記録） 7) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（調査） 8) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（報告と討論） 9) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（まとめ） 10) 呼吸・循環器疾患の対象者の生活活動支援 11) 神経・筋疾患の対象者の生活活動支援 12) 運動失調の対象者の生活活動支援

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	13) 運動器障害・整形外科疾患の対象者の生活活動支援 14) その他の疾患の対象者の生活活動支援 15) 総括
授業の進め方	1) スライド、配布資料、教科書・動画等を用いて講義を行う。 2) 講義の内容に合わせたグループワークを行いながら授業を進める。 3) 具体的な支援方法について理解を深めるために、随時課題を与える。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、事例検討や支援の演習を行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと。 授業後に教科書、配布資料を確認し、講義ノートを整理すること。 合計15時間程度
教科書・参考書	【教科書】 小川真寛・白井はる奈編著 最新作業療法学講座 日常生活活動（ADL）（医歯薬出版）2025年 【参考書】 濱口 豊太 編集 標準作業療法学専門分野 「日常生活活動・社会生活行為学」 第2版（医学書院）2022年 柴 喜崇 下田 信明 編集 PTOTビジュアルテキストADL 第2版（羊土社）2021年 伊藤 利之 ほか 編集 新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際（医歯薬出版）2020年 木之瀬隆 編集 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「日常生活活動学（ADL）」改訂第2版（メジカルビュー社）2022年
成績評価方法と基準	授業で提示する課題や小テスト30%＋定期試験70%から生活活動に対する作業療法支援技術を判断する。
課題等に対するフィードバック	授業資料の中で、提出された課題へのフィードバックをします。 必要に応じてCampusSquareから個別にコメントをします。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	本科目は、生活活動論基礎に続く応用科目です。必要に応じ、生活活動論基礎をはじめとする各作業療法関連科目の資料を各自で用意して下さい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業を実施する。 ・Zoomのブレイクアウトルームを使用してグループワークを行う。 成績評価方法と基準 授業中に提示する課題や小テスト50%＋定期試験に代わるレポート50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	身体障害の作業療法基礎
授業コード	AE267
英語名称	Foundation of Occupational Therapy Theory:Physical Disabilities
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	長谷川 辰男
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	作業を行う上で、身体への関与は不可欠である。身体の障害を持つ人々に対する作業療法の評価、治療過程、治療実施について教授する。 運動や感覚などの身体的な側面のみならず、その障害によって現れる精神面、生活面への影響なども含め複合的に理解を進める。また、神経変性疾患、筋・骨格系疾患、脈管系疾患、内臓器系疾患などの主たる疾患による身体障害の特徴を理解し、それぞれに必要な作業療法の過程を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士としての臨床経験をもとに講義をする。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】 「科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している。【科学的思考力】」ために、以下を目標とする。 身体障害に生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 疾患ごとの予後について説明できる。 治療原理について説明できる。 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。
計画・内容	1) オリエンテーション 2) 運動学習 3) 関節可動域の拡大 4) 筋力の維持・増強 5) 感覚・知覚再教育 6) 物理療法の基礎 7) 脊髄損傷（疾患の特性、治療原理等） 8) 脊髄損傷（模擬実践等） 9) 関節リウマチ（疾患の特性、治療原理等） 10) 関節リウマチ（模擬実践等） 11) 骨関節疾患（疾患の特性、治療原理等）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	12) 骨関節疾患（模擬実践等） 13) 手の外科 14) 熱傷 15) まとめ
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義及び演習を行う。
能動的な学びの実施	学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1時間～2時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計60時間程度）
教科書・参考書	教科書：山口 昇、玉垣 努：身体機能作業療法学 第4版 2021、医学書院、5500円
成績評価方法と基準	筆記試験（100％）
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	「作業療法評価学」での知識を復習しておくこと。その知識をもとに治療過程、治療方法を学びます。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomミーティングおよび課題提出で行う。 成績評価方法の基準 提出課題の内容等により成績評価を行う。(100％)

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	身体障害の作業療法応用
授業コード	AE317
英語名称	Application of Occupational Therapy Theory:Physical Disabilities
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	長谷川 辰男
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	脳血管障害から引き起こされる、運動麻痺・感覚障害・高次脳機能障害などの症状、及び急性・回復・維持期の各病期における臨床症状を理解する。対象者は、脳梗塞・脳出血・頭部外傷・脳腫瘍患者である。全体像を把握し、運動面、精神面、生活面に関わる具体的な評価から訓練に至るまでの実践的な援助方法を習得する。 さらに、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経内科的疾患も学習する。特に進行性の患者に対する対応の留意点を学習し、予後について理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士としての臨床経験をもとに講義をする。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している。【科学的思考力】」ために、以下を目標とする。 1) さまざまな疾患の病態と臨床経過を説明できる。 2) 脳血管障害に対する作業療法アプローチの目的を説明できる。 3) 頭部外傷、脳腫瘍に対する作業療法アプローチの目的について説明できる。 4) 脳血管障害に対する作業療法の実際を説明できる。 5) 神経・筋難病に対する作業療法の目的を説明できる。 6) 神経・筋難病に対する作業療法の実際を説明できる。
計画・内容	1) イントロダクション 2) 脳血管障害の病態とその臨床経過 片麻痺とその予後 3) 脳血管障害の病態とその臨床経過 合併症状など 4) 外傷や脳腫瘍の病態とその臨床経過 5) 脳血管障害の評価と治療の原則 医学的治療と作業療法の関連について 6) 血管障害の評価と治療の原則 作業療法の一般的な評価について 7) 血管障害の評価と治療の原則 作業療法の治療・指導・援助について 8) 脳血管障害に対する作業療法の実際 各病期に応じた作業療法目標を立てる 9) 脳血管障害に対する作業療法の実際 上肢機能回復に対する作業療法プログラムの計画を立てる 10) 脳血管障害に対する作業療法の実際 知的・認知機能障害に対する作業療法プログラムの計画を立てる

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	てる 11) 脳血管障害に対する作業療法の実際 ADL指導・援助するための作業療法プログラムの計画を立てる 12) 脳血管障害に対する作業療法の実際 地域生活・社会生活を支援するための作業療法プログラムの計画を立てる 13) 神経・筋難病の病態とその臨床経過 14) 神経・筋難病の評価と実際について
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義及び演習を行う。
能動的な学びの実施	学生のへの質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと。(各回1時間) ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。(合計15時間程度)
教科書・参考書	教科書：山口 昇 玉垣 努 編集：標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 2021医学書院 5500円
成績評価方法と基準	定期試験(100%)
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	「神経内科学基礎」「神経内科学臨床」で習った疾病や障害を復習しておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomミーティングや課題提出型にて授業を進める。 成績評価法 課題の提出や内容にて評価をする。(100%)

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	老年期障害の作業療法基礎
授業コード	AE268
英語名称	Occupational Therapy Theory:Geriatrics
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	小橋 一雄
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	作業療法は、生き生きと社会で生活するための作業を獲得するリハビリテーションである。本科目は、作業療法基礎評価学、生活活動評価学などを基盤として高齢者の身体特性や生活特性について学び、老年期の作業療法応用につなげる。 ここでは、老年期による心身機能・日常生活・社会生活の変化について理解し、ライフステージで生き生きと社会で生活するための基本的要素について理解する。 また、介護保険制度をはじめとする高齢者支援に必要な社会制度を学習する。尚、本科目は上記内容について、地域及び施設における高齢者領域において実務経験のある教員による実践的科目である
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は、維持期及び終末期に見られる、虚弱高齢者や認知症の高齢者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽している。この講義では、高齢者の身体及び精神、生活の特徴を基に、高齢者医療及び介護領域において培われた作業療法士としての実務経験を活かして講義する。
到達目標	本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の4つを目標とする。 1) 高齢者の身体機能の特性について説明できる 2) 高齢者の精神・心理的特性について説明できる 3) 獲得していく世代と比較して、喪失する体験の多い高齢者の生活特徴について説明できる 4) 作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる これらを通して、老年期に生活障害を抱えるクライアントに対する評価と治療方針を検討し、対応することができるようになる。また、高齢者に対する尊厳について学ぶことで医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる
計画・内容	本科目は、担当教員が高齢者医療及び介護領域において培われた実務経験を活かして講義する。 1) 高齢者社会と高齢社会が抱える問題 担当：小橋：作業療法士 2) 高齢者のライフスタイル 担当：小橋：作業療法士 3) 高齢者の精神・心理機能の特性（発達課題と喪失体験） 身体機能の特性（呼吸器 循環器 消化器） 担当：小橋：作業療法士 4) 高齢者の身体機能の特性（運動機能 生理機能 認知機能） 担当：小橋：作業療法士 5) 高齢者体験 担当：小橋：作業療法士 6) 高齢者の生活上の課題 担当：小橋：作業療法士 7) 高齢者の地域で暮らすための課題 担当：小橋：作業療法士

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	8) まとめ 担当：小橋：作業療法士
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義を進める。個人ワーク、ペアワーク、グループワークなど、アクティブラーニングの機会を多く用いて行う。
能動的な学びの実施	課題を通して、前回の課題の確認、次回の課題の予習を説明し、授業ごとの振り返りが出来るようにする。
授業時間外の学修	授業時間外学習 予習および復習は合計30時間程度おこなってください 予習は教科書から対応する部分について、あらかじめ熟読してください 復習は、教科書と授業内で配布した資料を学習してください
教科書・参考書	教科書：村田和香 編集；作業治療学4 老年期 協同医書出版 2940円：2008 参考書：長崎重信 監修；老年期作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)メジカルビュー社 4400円：2017
成績評価方法と基準	・ 期末試験の成績100%により評価する。
課題等に対するフィードバック	課題に対してのフィードバックは、Campus Square内のレポート機能を通して、フィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	事前に、人体の構造と機能 の講義を下に、生理学、解剖学について再度復習をして臨んでください この科目の多くはアクティブラーニング形式で行われます。主体的に学び、積極的に発言し、他者と協力しながら学習を深めることが求められます。特に、作業療法教育では、認知領域（知識）、情意領域（態度）、精神運動領域（技術）の習得が不可欠であり、これら3つを意識して受講してください。 本講義は、すべての学生が学びやすい環境を維持しながら進行します。そのため、互いの学習を尊重し、積極的かつ協調的な姿勢で取り組むことが期待されます。授業内での発言や行動は、自身の理解を深めるだけでなく、他の受講生の学びにも影響を与えることを意識し、責任をもって参加してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面学習となった場合でもZOOMなどのオンラインシステムを用いて行う。 教科書、配布資料を使用し講義を進め、ブレイクアウトルームなどを用いて、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなど、アクティブラーニングの機会を多く用いて行う。 ・ 期末試験は、googleフォームを用いて行う。 ・ 課題などのフィードバックは、Zoomによる質問会及び個別にレポート機能を用いて行う。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	老年期障害の作業療法応用
授業コード	AE319
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	小橋 一雄
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	自己実現能力の養成を行う作業療法は、生き活きと社会で生活するための作業を獲得するリハビリテーションである。ここでは、老年期に体験する特徴的な疾病や生活の変化による心身機能・日常生活・社会生活の変化について理解し、生き活きと社会で生活するために行われる、予防的視点、治療視点をもとに行われる作業療法について学習する。尚、本科目は上記内容について、地域及び施設における高齢者領域において実務経験のある教員による実践的科目である
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は、維持期及び終末期に見られる、虚弱高齢者や認知症の高齢者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽している。この講義では、高齢者の身体及び精神、生活の特徴を基に、高齢者医療及び介護領域において培われた実務経験を生かして講義する。
到達目標	本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の3つを目標とする。 1) 高齢者の生活を評価することができる 2) 高齢者の予防的、治療的、適応的視点で作業療法を理解することができる 3) 回復及び適応的、予防的視点を学習し、地域や施設または病院において、集団及び個別の作業療法を実施できる これらを通して、老年期に生活障害を抱えるクライアントに対する評価と治療方針を検討し、対応することができるようになる。また、高齢者に対する尊厳について学ぶことで医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる
計画・内容	科目は、担当教員が高齢者医療及び介護領域において培われた実務経験を生かして講義する。 1) オリエンテーション 高齢者に用いる標準化された検査 担当教員：小橋 2) 高齢者の生活を評価（作業質問紙などの活用） 担当教員：小橋 3) 高齢者の生活を評価（標準化された評価用紙の活用） 担当教員：小橋 4) 高齢者の生活史を知る（情報収集） 担当教員：小橋 5) 高齢者の作業療法介入 担当教員：小橋 6) 虚弱老人に対する作業療法（廃用症候群、寝たきりについて） 担当教員：小橋 7) 寝たきりに対する作業療法 担当教員：小橋 8) 前半のまとめ 担当教員：小橋

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	9) 高齢者の生活史を知る (発表) 担当教員: 小橋 9) 認知症に対する作業療法 担当教員: 小橋 10) 認知症に対する作業療法 認知症の方の世界を理解する 担当教員: 小橋 11) 認知症に対する作業療法 ADLへの介入を工夫する 担当教員: 小橋 12) 認知症に対する作業療法 BPSDへの介入を工夫する 担当教員: 小橋 13) 認知症に対する作業療法 予防的作業療法の考え方 担当教員: 小橋 14) 整形外科疾患とロコモティブシンドローム 担当教員: 小橋 15) 老年期障害の作業療法 まとめ 担当教員: 小橋
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義を進める。オンラインシステムを活用して、講義、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなどのアクティブラーニング形式で行う。
能動的な学びの実施	課題を通して、前回の課題の確認、次回の課題の予習を説明し、授業ごとの振り返りが出来るようにする。
授業時間外の学修	授業時間外学習 予習および復習は合計15時間程度行ってください 予習は教科書から対応する部分について、あらかじめ熟読してください 復習は、教科書と授業内で配布した資料を学習してください
教科書・参考書	教科書: 村田和香 編集; 作業治療学4 老年期 協同医書出版 2940円: 2008 参考書: 宮口英樹 監修; 認知症を持つ人への作業療法アプローチ メジカルビュー 4300円: 2019
成績評価方法と基準	成績は、定期試験の成績 (100%) と課題 (40%) ので判定する。
課題等に対するフィードバック	課題に対してのフィードバックは、Campus Square内のレポート機能を通して、フィードバックする。
オフィスアワー	CAMPUSSQUAREで確認をしてください。
留意事項	本科目は、老年期障害の作業療法基礎で学んだ知識を基に、老年期に対する作業療法の介入を学習する。特に認知症高齢者、虚弱高齢者、障害高齢者の評価からプログラム立案、実践上の問題点など演習または症例提示により、グループ討議や全体討議をと通して作業療法介入の本質を学習する。 担当教員 (経歴) 介護療養型医療施設青梅慶友病院に14年勤務し、その後介護老人保健施設飯能リハビリ館に勤務。地域の作業療法と終の棲家である療養型の医療施設にて作業療法を展開する。現在は、飯能リハビリ館にて地域における高齢者の作業療法を行っている。 アクティブラーニング形式の授業のため、主体的に学び、積極的に発言し、他者と協力しながら学習を深めることが求められます。特に、作業療法教育では、認知領域 (知識)、情意領域 (態度)、精神運動領域 (技術) の習得が不可欠であり、これら3つを意識して受講してください。 本講義は、すべての学生が学びやすい環境を維持しながら進みます。そのため、互いの学習を尊重し、積極的かつ協調的な姿勢で取り組むことが期待されます。授業内での発言や行動は、自身の理解を深めるだけでなく、他の受講生の学びにも影響を与えることを意識し、責任をもって参加してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め	非対面学習となった場合でもZOOMなどのオンラインシステムを用いて行う。 教科書、配布資料を使用し講義を進め、ブレイクアウトルームなどを用いて、個人ワーク、ペアワーク、

2025年度 東京西学部時間割

方」および「成績評価方法と基準」	グループワークなど、アクティブラーニングの機会を多く用いて行う。 対面での試験実施が不可能な場合、googleフォームなどを用いて試験を行う。 基本的には、対面時と同様に、前半のまとめの際に行う中間試験（50％）定期試験の成績（50％）の合計100％で判定する。どちらか一方が非対面となった場合にも試験方法にかかわらず、同様の判定を行う。
------------------	--

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	認知症の作業療法
授業コード	AE322
英語名称	Occupational Therapy Theory for Dementia
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	小橋 一雄
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	認知症に関する、臨床像とこれからの作業療法のあるべき役割について深めます。標準化されたテストバッテリーや認知症の映画等を通して、認知症当事者の思いや関わる人の思いについて考え、総合的な支援法及び作業療法士の役割を学びます。認知症それを取り巻く関係者の思いを理解し、認知症をに対する作業療法の修得を目的とします。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は、認知症、脳卒中、神経難病などの患者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽する作業療法士によって担当される。この講義では日常生活に影響を及ぼす、認知症の特徴に対する、評価及び治療体験を活かして講義を行う
到達目標	本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の3つを目標とする。 1) 認知症について説明出来る 2) 認知症の評価が出来る 3) 認知症の作業療法の役割について説明できる この授業を通して、認知症当事者や関係する家族の苦悩を知ることで、クライアントの抱える問題に共感し、クライアント中心の援助を考えることができるようになる。また、医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる
計画・内容	1) 1回目 オリエンテーション 認知症とは（小橋：作業療法士） 2) 作業機能障害と認知症（小橋：作業療法士） 3) 認知症に用いられる検査（小橋：作業療法士） 4) 映画で読み解く認知症高齢期の認知症1（小橋：作業療法士） 5) 映画で読み解く認知症高齢期の認知症2（小橋：作業療法士） 6) 映画で読み解く認知症若年性認知症1（小橋：作業療法士） 7) 映画で読み解く認知症若年性認知症2（小橋：作業療法士）（小橋：作業療法士） 8) これからの認知症に対する作業療法を考える（小橋：作業療法士） 担当教員は、認知症、脳卒中、神経難病などの患者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽する作業療法士によって担当される。この講義では日常生活に影響を及ぼす、認知症の特徴に対する、評価及び治療体験を活かして講義を行う
授業の進め方	スライド、ビデオ、配布資料、教科書を使用し教授します。 認知症の病態・評価・臨床での関わりを、映画や資料を基に講義を進めます。
能動的な学びの実施	授業は、個人ワーク、ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブラーニング形式で、課題解決の方法を身につけていく。 授業の最初には、前回の確認テストを実施し、授業ごとの振り返りが出来るようにする。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	
授業時間外の学修	予習及び復習を含め、合計 30時間程度 の学外学習を行ってください 学習は、老年期の作業療法の教科書、参考図書も含め、あらかじめ読む、インターネットなどで検索して学習をしてください。
教科書・参考書	教科書：指定しない 参考書：宮口英樹 監修；認知症を持つ人への作業療法アプローチ メジカルビュー 4300円：2019 小川 敬之 (編集), 竹田 徳則 (編集)認知症の作業療法第2版ソーシャルインクルージョンをめざして 5170円：2016
成績評価方法と基準	成績は、レポート課題100%（題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さ、引用・出典明示、現実との関連づけ等によって判定する）
課題等に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは、クラス全体に対して随時行います。 また、必要に応じて個別に行います。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	授業への参加態度が学習の大きなポイントになります。授業時間内や課外での積極的な取り組みを期待します。 この科目では、主体的に学び、積極的に発言し、他者と協力しながら学習を深めることが求められます。特に、作業療法教育では、認知領域（知識）、情意領域（態度）、精神運動領域（技術）の習得が不可欠であり、これら3つを意識して受講してください。 本講義は、すべての学生が学びやすい環境を維持しながら進行します。そのため、互いの学習を尊重し、積極的かつ協調的な姿勢で取り組むことが期待されます。授業内での発言や行動は、自身の理解を深めるだけでなく、他の受講生の学びにも影響を与えることを意識し、責任をもって参加してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合には、オンライン会議システムを用いて行う。資料及び教科書は事前に配布し、それに沿って講義を行う。なお、講義の最後には、小テストをgoogleフォームを用いて行う。 成績は、授業内でのレポート100%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	精神障害の作業療法基礎
授業コード	AE256
英語名称	Foundation of Occupational Therapy Theory: Psychosocial Dysfunction
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	黒川 喬介, 大関 健一郎
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	精神疾患により生活が障害された人々に対し、個別あるいは他の人達との関わりや、具体的・現実的な作業活動を利用し、精神機能の向上、対人関係の改善、作業能力の改善などをはかり、そうした人々がより良い生活を送れるように指導、援助する役割を理解する。そして、各疾患（統合失調症、気分障害、神経症、境界性パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、依存症候群、認知症など）の理解と作業療法の展開を学習する。 尚、本科目は上記内容について精神科および認知症専門病院での作業療法に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。
科目に関連する実務経験と授業への活用	大関、黒川ともに精神科作業療法および認知症治療病棟の勤務経験を有する。教科書に書いてある抽象的な表現は、現場経験のない学生には理解しがたいものであるが、豊富な経験から具体的なエピソードを交えた説明をすることで、学生の理解と学習意欲を高めることが可能。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる、作業参加を通じて人々の健康と幸福を促進する作業療法士としての役割や職責を理解している【役割と職責】、様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる【知識・技能】が実現するように、精神疾患別の、特徴、評価、治療方法を理解する。 ・対象者を他部門情報、面接、観察、検査などを通して多角的な視点で見る必要性を理解する。 ・作業療法士の役割の中で倫理的配慮をもって治療にあたる知識を理解することができる。
計画・内容	1) 精神障害の概要：精神科作業療法に用いられる用語について（黒川） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる 2) 精神科作業療法の基本的な流れ（黒川） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる 3) 気分障害の作業療法（症状の理解）（黒川） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる 4) 気分障害の作業療法（作業療法の展開）（黒川） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる 5) 統合失調症（症状の理解）（大関） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる 6) 統合失調症（作業療法の展開）（大関） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる 7) 神経症の作業療法（大関） 予習）教科書を読んでおく 復習）ノートをもとめる

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	8) パーソナリティ障害の作業療法 (大関) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 9) 摂食障害の作業療法 (大関) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 10) 依存症の作業療法 (黒川) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 11) てんかんの作業療法 (黒川) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 12) 認知症の作業療法 (症状の理解) (黒川) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 13) 認知症の作業療法 (作業療法の展開) (黒川) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 14) 治療構造 (5つの要素) (大関) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 15) 治療構造 (環境設定) (大関) 予習) 教科書を読んでおく 復習) ノートをまとめる 大関: 作業療法士 黒川: 作業療法士
授業の進め方	・板書、配布資料、PowerPointを利用した授業形式で行う。
能動的な学びの実施	各章ごとに国家試験に似た問題からケーススタディを行う。その中で、単純記憶の学習でない思考過程を体験し、考える能力を高めていく。
授業時間外の学修	授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。 授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること。 (合計60時間程度)
教科書・参考書	・小川敬之、竹田 徳則: 認知症の作業療法 第2版 ソーシャルインクルージョンをめざして、医歯薬出版 (2016) ・堀田英樹: 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版、中央法規 (2020)
成績評価方法と基準	学習の節々で評価試験 (小テスト) を実施し、平均 60% 以上を合格とする。 * 大学指定の期末試験期間の定期試験は行わない。小テストの結果で評定する (100%)。
課題等に対するフィードバック	・小テストについては、適時フィードバックを行う。 ・授業中に質問があった場合、その都度フィードバックを行う。
オフィスアワー	「CampusSquareを参照」
留意事項	2年後期の本科目では、各疾患 (統合失調症、気分障害、神経症、境界性パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、依存症候群、認知症) の理解と作業療法の展開を学習し、3年次前期の精神障害の作業療法応用で学習する、各精神疾患に対する具体的な治療計画の立て方と効果測定につなげる上での必要な基礎知識の体得を目指す。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業方法 ・zoomによるオンライン授業と課題学習、オンデマンド授業を組み合わせる。 評価方法 ・小テストの平均点で評価する (100%)

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	精神障害の作業療法応用
授業コード	AE320
英語名称	Application of Occupational Therapy Theory: Psychosocial Dysfunction
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	大関 健一郎, 古賀 誠, 税所 裕子, 黒川 喬介
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	1, 2年次で行った、作業療法基礎技法学・実習、作業療法評価学、精神障害の作業療法基礎を振り返り、それらに関する知識や、技術の再検討を行い、3年後期からの臨床実習に対応できる能力を養成する。また、臨床家の先生からの実践報告を聞き、現場のイメージを広げる。作業をどのように治療につなげるのかを学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は上記内容について作業療法専門分野で業務に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる、様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる【知識・技能】、科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している【科学的思考力】、人々と良好な関係を築くために話を傾聴し共感することができる【コミュニケーション力】を実現するために以下の知識と能力を養うことを目標とする。 1、精神障害の作業療法基礎で獲得した知識をもとに、より応用的な思考レベルに到達する。
計画・内容	1) 臨床業務の基礎知識（処方箋～治療）（黒川） 2) 回復状態と目標（大関） 3) 評価項目：第一印象～対人関係（黒川） 4) 治療計画の要素（大関） 5) 作業・その治療的応用：絵画、料理、タイルモザイク、陶芸、（大関） 6) 作業・その治療的応用：籐細工、手芸、散歩（黒川） 7) 作業・その治療的応用：ノンバーバルサイン（非言語）の観察（大関） 8) 作業・その治療的応用：革細工、木工、ゲーム（黒川） 9) 海外のリハビリテーション、認知症病棟（○税所・大関・黒川） 10) 作業・その治療的応用：音楽（楽器）、園芸、365日レク、織物（大関） 11) 作業・その治療的応用：紙細工、マクラメ、銅板（黒川） 12) アルコール依存症の作業療法（○古賀・大関・黒川）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	13) 事例とICF (黒川) 14) 精神科デイケアの実践 (○古賀・大関・黒川) 15) スポーツ活動とリハビリテーション (○古賀・大関・黒川) 注) 14, 15回目は連続で行います。 大関: 作業療法士 黒川: 作業療法士 税所: 作業療法士 古賀: 作業療法士 金丸: 作業療法士
授業の進め方	板書、配布資料、PowerPointや動画を使用した授業形式、グループワークでのディスカッション形式。
能動的な学びの実施	内容によっては、グループワークでのディスカッションや演習を行い、積極的な発言を求める。
授業時間外の学修	授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。 授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること。 (合計60時間程度)
教科書・参考書	・日本作業療法士協会: 作業・その治療的応用 (第2版) 2008、協同医書出版
成績評価方法と基準	定期試験期間に試験を行う。得点60%以上を合格とする (100%)。
課題等に対するフィードバック	授業中などに質問があった場合、その都度フィードバックを行う。
オフィスアワー	「CampusSquareを参照」
留意事項	2年後期で行った精神障害の作業療法基礎につづく科目である。2年後期では、各疾患 (統合失調症、気分障害、神経症、境界性パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、依存症候群、認知症) の理解と作業療法の展開を学習してきたが、3年前期の本科目では、各精神疾患に対して、治療構造理解したうえで、具体的な治療計画の立て方と効果測定について学習し、総合臨床実習を行う上で必要な知識と技術の体得を目指す。 非常勤講師の日時は事情により変更することがあります。その際は、掲示板で連絡をします。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業方法 ・zoomによるオンライン授業と課題学習、オンデマンド授業を組み合わせ実施する。 評価方法 ・期末レポートで評価する (100%)

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもの作業療法基礎
授業コード	AE269
英語名称	Foundation of Occupational Therapy Theory Pediatrics
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	大西 正二
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、発達障害領域の作業療法で対象となる代表的な疾患・障害について学び、人間発達学で学んだ知識を基に、その障害が子どもの発達に及ぼす影響について理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	発達障害領域の作業療法士として、乳児期から高齢期までの実務経験を活かして講義する。
到達目標	ディプロマポリシーにおける「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基礎的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】」に該当する科目である。 カルキュラム・ポリシーにおける「人体の構造と機能及び発達、疾病、障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ」が実現するよう、発達領域の作業療法に必要な基礎知識を身につける。 子どもの作業療法学を通し、発達期における代表的な疾患・障害について学び、子どもの作業療法の実践に生かすための基礎知識を築くことを目標とする。
計画・内容	第1回 子どもの作業療法の概論 （運動発達） 第2回 脳性麻痺 （概説など） 第3回 脳性麻痺 （乳児期から高齢期までのライフステージによる変化など） 第4回 子どもの作業療法の概論 （感覚・認知・言語の発達） 第5回 子どもの作業療法の概論 （ADL・遊び・社会適応の発達） 第6回 知的発達症（知的障害） 第7回 重症心身障害 第8回 筋ジストロフィー症 第9回 二分脊椎 第10回 自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害） 第11回 注意欠如多動症（注意欠陥多動性障害） 第12回 発達性協調運動症（発達性協調運動障害） 第13回 限局性学習症（学習障害） （読み障害）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 限局性学習症（学習障害）（書き障害） 第15回 まとめ
授業の進め方	パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを適宜使用する。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、必要に応じて実技やグループワークを行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書に該当箇所を目を通しておく。（各回1～2時間） 授業後は、教科書、テキストを関連づけて自分の講義ノートを整理する。 （予習復習を合わせて合計60時間）
教科書・参考書	【教科書】 長崎重信，作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学第3版，メジカルビュー社，2021． 【参考書】 新田収・笹田哲・内昌之，知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド，金原出版，2012． 笹田哲，イラストと動画で学ぼう！人間発達学，診断と治療社，2023．
成績評価方法と基準	各授業後の小テスト（40％）＋最終回の授業における評価課題（60％）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーにおける質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行う。 （各授業後に実施する小テストに質問欄を設ける予定）
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	発達の領域では対象者の発達レベルや障害の原因を正確に評価する必要があります。 子どもの作業療法を通して、代表的な疾患の知識を習得しておくことが重要です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1．各授業をオンラインもしくはオンデマンドで配信をする。 2．各授業後に課題を提示する。 成績評価方法と基準 各授業後に提示した課題：100%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもの作業療法応用
授業コード	AE321
英語名称	Application of Occupational Therapy Theory Pediatrics
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	大西 正二
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、発達障害領域の作業療法で対象となる代表的な疾患・障害について、子どもの作業療法基礎で学んだ知識を基に、治療計画を立案し、治療目標、治療実施のプロセスを学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	発達障害領域の作業療法士としての、乳児期から高齢期までの実務経験を活かして講義する。
到達目標	ディプロマポリシーにおける「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基礎的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】」、「科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している。【科学的思考力】」に該当する科目である。 カルキュラム・ポリシーにおける「人体の構造と機能及び心身の発達、疾病・障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ」、「基礎作業療法学や評価学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ」が実現するよう、発達障害領域の作業療法の具体的な実践方法について理解する。子どもの作業療法応用を通し、子どもの作業療法を実践していくために必要な治療計画の立案、治療目標、治療実施のプロセスについて理解することを目指す。
計画・内容	第1回 制度・福祉サービス・補装具について / 子どもの作業療法とICF 第2回 姿勢の評価（背臥位） 第3回 姿勢の評価（座位） 第4回 ファシリテーションテクニックによる神経生理学的アプローチ 第5回 感覚統合療法によるアプローチ（感覚調整障害） 第6回 感覚統合療法によるアプローチ（行為機能不全） 第7回 摂食機能の評価 第8回 摂食機能へのアプローチ 第9回 知的発達症（知的障害）の作業療法 第10回 肢体不自由児・者の作業療法（幼児期） 第11回 肢体不自由児・者の作業療法（学齢期 / 青年期） 第12回 肢体不自由児・者の作業療法（成人期 / 高齢期）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第13回 重症心身障害の作業療法
	第14回 限局性学習症（学習障害）の作業療法
	第15回 まとめ
授業の進め方	パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを適宜使用する。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、必要に応じて実技やグループワークを行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書に該当箇所に目を通しておく。 授業後は、教科書、テキストを関連づけて自分の講義ノートを整理する。 （予習復習を合わせて合計15時間）
教科書・参考書	【教科書】 長崎重信，作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学第3版，メジカルビュー社，2021． 【参考書】 新田収・笹田哲・内昌之，知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド，金原出版，2012． 渡部伸，障害のある子が将来にわたって受けられるサービスのすべて，自由国民社，2019． 金子芳洋，食べる機能の障害，医歯薬出版，1987． 日本摂食嚥下リハビリテーション学会，小児の摂食嚥下障害，医歯薬出版，2020．
成績評価方法と基準	各授業後の小テスト（40％）＋定期試験（60％）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーにおける質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行う。 （各授業後に実施する小テストに質問欄を設ける予定）
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	発達の領域では対象者の発達レベルや障害の原因を正確に評価する必要があります。 子どもの作業療法を通して、代表的な疾患の知識を習得しておくことが重要です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1．各授業をオンラインもしくはオンデマンドで配信をする。 2．各授業後に課題を提示する。 成績評価方法と基準 各授業後に提示した課題：100%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	乗馬療法技術概論
授業コード	AD348
英語名称	Introduction to Equine-Assisted Therapy
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	石井 孝弘
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	動物介在療法を実施する際に感覚統合について理解しておくことは重要である。動物介在療法はその対象者の日常生活における困難さを解決する目的で行われる治療、療法である。 対象者の抱えている問題点に対して、動物介在療法は主に動物とともに行う活動により得ることが可能な感覚刺激を脳が受容することが効果柄とつながる。この科目では動物とともに行う活動により得ることの感覚刺激がどのようなものがあり、その感覚刺激が脳に与える影響について理解を深める。 主な対象となる動物は哺乳動物となる。その中でも人が乗ることが馬を中心に学ぶ。 この授業を受講することで、動物介在療法において、人の脳に与える感覚刺激を考慮したプログラムの立案が可能となる。 1.動物介在療法において感覚統合の知識を役立てる。 2.動物介在療法で用いられる感覚統合理論の概要を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	「実務経験のある教員による実践的科目」 1、地域における障害児・者支援として、乗馬療法を行っている作業療法士による講義を行う。 2、馬のケア、心理学、調教、馴致などを海外学び日本の乗馬施設、ホースセラピー施設において実践を行っている講師による実践的科目
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる「人体の構造と機能及び心身の発達、疾病・障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ、保健医療福祉などの臨床を体験し、知識・技能、専門職としての認識を高める」が実現するよう、動物介在療法において治療的要素である「感覚統合」の基本的な知識を身につける。 1. 対象者に影響を及ぼす感覚刺激について理解し説明することができる。 2. 動物介在療法で用いられる動物との活動において受容可能な感覚刺激の概要を理解し、説明することができる。 3. 動物介在療法において感覚刺激を治療的要素として意識したプログラムの立案を行うことができる。 研究者倫理に関する規範意識として、研究者の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で研究に取り組むことができる。
計画・内容	予習：乗馬療法について 1 乗馬療法技術概論 オリエンテーション 復習・予習：乗馬療法技術概論 乗馬療法の対象 2 乗馬療法の対象 復習・予習：乗馬療法の対象 乗馬療法に使用される馬 3 乗馬療法に使用される馬

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	6 乗馬療法におけるスタッフの役割 復習・予習：乗馬療法におけるスタッフの役割 馬の評価概論 7 馬の評価概論 復習・予習：馬の評価概論 高度な馬の評価 8 高度な馬の評価 復習・予習：高度な馬の評価 馬の斟致・調教概論 9 馬の馴致・調教概論 復習・予習：馬の馴致・調教概論 馬の馴致・調教演習1、基本的な馬とのかかわり 10 馬の馴致・調教演習1、基本的な馬とのかかわり 復習・予習：馬の馴致・調教演習1、基本的な馬とのかかわり スタッフとしての役割 11 馬の馴致・調教演習2、スタッフとしての役割 復習・予習：馬の馴致・調教演習2、スタッフとしての役割 乗馬療法の実際 12 乗馬療法の実際 復習・予習：乗馬療法の実際 乗馬療法演習1、肢体不自由 13 乗馬療法演習1、肢体不自由 復習・予習：乗馬療法演習1、肢体不自由 発達障害 14 乗馬療法演習2、発達障害 復習・予習：乗馬療法演習2、発達障害 15 乗馬療法概論まとめ 復習：授業全体を復習する
授業の進め方	1各テーマごとの講義、動画等を用いる 2乗馬療法について演習を行う
能動的な学びの実施	問題解決学習：乗馬療法について演習を通して実践的な学習を行う。 講義はその実践的演習に必要な基礎知識となるので授業中の学習については必ず復習を行い身に着けていくことが重要である。 演習に関しては、積極的な取り組みとしての体験が重要である
授業時間外の学修	授業前の予習は、動物介在療法に関する内容について、インーネット等で配信されている動画などの該当箇所を視聴しておく。（2時間） 授業後の復習は、授業内容の講義 ノートを整理し作製する（2時間）
教科書・参考書	特に指定しない
成績評価方法と基準	授業中に実施する課題に対する解答により評価を行う（100％）
課題等に対するフィードバック	授業中の質問については即時回答する。
オフィスアワー	「CampusSquareを参照」
留意事項	選択科目 動物介在療法のための感覚統合を受講することが望まれる 授業中の質疑応答には積極的姿勢で臨むことを期待する。 特に教員が話した内容の要点をノートに取ることなどが重要である。 動物介在療法、アニマルセラピー、ホースセラピー、Animal-assisted therapy、Animal-assisted-activity を実践するために必要な基本的知識である。 将来この分野にかかわろうとする学生は受講することが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 各テーマごとの非対面型の講義はオンタイムもしくはオンデマンドにて動画配信する。 2. 最終回に課題を提示してレポートとして提出する80％、 授業時間中に提示する課題20％

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	在宅作業療法
授業コード	AE270
英語名称	Occupational Therapy in Home Health
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	竹嶋 理恵
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	在宅生活に障害がある人または障害をきたすおそれのある人に対する、訪問系作業療法・通所系作業療法の基本的な知識と具体的な援助方法を学習する。また、予防作業療法と予防に通じる健康管理のあり方について学習する。 本講義の修了後、学生は訪問系作業療法や通所系作業療法の実践の場に応じた在宅作業療法・予防作業療法と健康管理について理解し、目的と意義・関連した評価・アプローチの方法について説明することができる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目では、在宅作業療法に従事した実務経験のある教員が、作業療法の実際の現場で評価・アプローチをどのように行っているか、作業療法の実務経験を活かして講義する。
到達目標	1) 実際の場面における作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる。 2) カリキュラムポリシーに掲げる「医療・福祉・保健・教育の幅広い領域への健康支援のために実践能力を備えた人材を育成する」が実現するよう、在宅作業療法の基本的な知識を身につける。 3) 訪問系作業療法や通所系作業療法の実践の場に応じた在宅作業療法・予防作業療法と健康管理について目的と意義を説明できる。 4) 在宅作業療法に関連した評価・アプローチの方法について説明することができる。
計画・内容	1) オリエンテーション / 在宅作業療法の基礎知識 2) 訪問系作業療法の支援方法 3) 通所系作業療法の支援方法 4) 在宅作業療法に必要な倫理と態度 5) 在宅におけるフィジカルアセスメントと健康管理 6) 在宅作業療法の実際（骨・関節疾患・事例検討） 7) 在宅作業療法の実際（骨・関節疾患・報告と討論） 8) 在宅作業療法の実際（脳血管疾患・事例検討） 9) 在宅作業療法の実際（脳血管疾患・報告と討論） 10) 在宅作業療法の実際（神経・筋疾患・事例検討）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	11) 在宅作業療法の実際（神経・筋疾患・報告と討論） 12) 在宅における医療管理 13) 在宅におけるリスクマネジメント 14) 生活・ライフスタイルと健康 15) 災害と被災地支援・総括
授業の進め方	1) スライド、配布資料、動画等を用いて講義を行う。 2) 講義の内容に合わせた演習を行いながら授業を進める。 3) 具体的な支援方法について理解を深めるために、随時課題を与える。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、必要に応じて演習と発表を行う。
授業時間外の学修	授業後に配布資料を確認し、講義ノートを整理すること。 そのほか、授業の中で提示された課題を実施すること。 合計60時間程度
教科書・参考書	【教科書】 長崎重信監修 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学（改訂第2版） メジカルビュー社 2023年 【参考書】 小林法一・小林隆司編著 最新作業療法学講座 地域作業療法学 医歯薬出版 2024年
成績評価方法と基準	授業中に提示する課題50% + 定期試験50%
課題等に対するフィードバック	学生からの質問や発表の都度コメントをします。 授業の中で、提出された課題へのフィードバックをします。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	事前に2年前期までのすべての必修科目を履修しておくことが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業を実施する。 成績評価方法と基準 授業中に提示する課題50% + 定期試験に代わるレポート50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	精神障害と臨床医学
授業コード	AD205
英語名称	Psychiatric Disorders and Clinical Medicine
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	鈴木 幹夫
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	精神医学の臨床場面では、「病気を診るのではなく、患者を診よ」といわれる。我々が接するのは、「こころ」を持った人間であり、病気を持つことにより、あるいは病人になることにより、こころに影響を受けない人はいないと思われる。我々はそのような患者の、「こころ」と「人生」を理解することを要求されている。本講では、「こころ」を診るために必要な精神医学の基本と、さらに主要な疾患の理解を目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	総合病院などで、精神科臨床の実務経験がある教員が、多くの症例提示を含め、臨床に役立つ精神医学を講義する。
到達目標	ここで得た知識が、将来、臨床の場面で、患者を、そして患者の人生を理解するという実践に役立つことが目標である。したがって、講義は、単なる疾患の説明に留まらず、より深い精神病理や精神力動をも視野に入れた内容になる。さらに、理学療法士、作業療法士の役割の中で、高い倫理感と道徳観をもって対象者と関わる姿勢、科学的思考力・問題解決能力や、人の話を傾聴し共感できる能力を身につけ、人の生命・生活を尊び、健康の促進に責任と役割を持つ専門職として、社会に貢献できることも目標となる。
計画・内容	1) 精神医学総論 精神医学の歴史（ヒポクラテス、クレベリン、フロイトなど） 精神疾患の分類、診断 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 2) 精神医学各論 統合失調症（歴史、疾病概念、疫学、経過など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 3) 精神医学各論 統合失調症（症状、分類、治療など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 4) 精神医学各論 気分障害（分類、病前性格など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 5) 精神医学各論 気分障害（症状、発病状況論、治療など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 6) 精神医学各論 精神科薬物療法（抗精神病薬、抗うつ薬など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 7) 精神医学各論 神経症（防衛機制、症状形成過程など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 8) 精神医学各論 神経症（転換性障害、解離性障害、強迫症など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 9) 精神医学各論 小児期の精神医学（自閉症スペクトラム、ADHD、チック障害など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 10) 精神医学各論 思春期、青年期の精神医学（思春期妄想症、摂食障害など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 11) 精神医学各論 思春期、青年期の精神医学（薬物依存など） 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 12) 精神医学各論 器質精神病、症状精神病、てんかん 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 13) 精神医学各論 老年期の精神医学

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 14) 精神医学各論 パーソナリティ障害 予習：教科書の該当部分を読んでおく。復習：教科書、ノートを読み返す。 15) まとめ
授業の進め方	毎回、指定の教科書と、随時配布するプリントを使用して講義を行うので、毎回教科書は持参すること。なるべく多くの具体的な症例を呈示し、患者が目の前にいるかのように想像できる授業を目指す。諸君にも、その疾患を持つ患者が、どのような人生を送っているかを思い浮かべることができるような、想像力とセンスが要求される。科学的な冷静な観察力と、共感する熱い情熱を併せ持つ、柔軟なところを持つよう努力してほしい。必要な場合、視覚教材を用いる場合もある。
能動的な学びの実施	該当しない
授業時間外の学修	授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくことが望ましい。 予習と復習に合計60時間程度。
教科書・参考書	鈴木幹夫著、『コメディカルのための精神医学』、DTP出版 を教科書として使用する。 参考資料は随時紹介あるいは配布。
成績評価方法と基準	レポート（100％）
課題等に対するフィードバック	途中小テストなどをした場合は、授業内で解説を行なう。
オフィスアワー	Campus Square を参照。
留意事項	1年で履修した臨床心理学の知識を復習しておくことが望ましい。 将来、臨床場面に臨む場合、精神医学的知識は必須と思われるので、真剣に履修してほしい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 授業動画配信によるオンデマンド授業とする。 成績評価方法 期末レポート100%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	人間発達学
授業コード	AD155
英語名称	Human Development
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	大西 正二
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、新生児期、乳児期、幼児期、学齢期、青年期、成人期、高齢期といった各ライフステージにおける発達の特徴、また運動、感覚、言語、認知、社会性、ADLといった領域別における発達の特徴について理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士としての乳児期から高齢期までの実務経験を活かして講義する。
到達目標	作業療法学科においては、ディプロマポリシーにおける「様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基礎的な臨床技能を実践できる。【知識・技能】」に該当する科目である。カリキュラム・ポリシーにおける「人体の構造と機能及び発達、疾病、障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ」が実現するよう、人間発達学の基礎知識を身につける。 理学療法学科においては、ディプロマポリシーにおける「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得している。」に該当する科目である。カリキュラム・ポリシーにおける「医学の基礎となる人体の構造、機能を理解する科目を配置する。」が実現するよう、人間発達の基礎知識を身につける。 人間発達学を通し発達理論や発達過程を学ぶことで、リハビリテーションの実践に生かすための基礎知識を築くことを目標とする。
計画・内容	第1回 人間の発達とは / 新生児期 第2回 運動の発達 （粗大運動 / 原始反射・姿勢反応） 第3回 運動の発達 （原始反射・姿勢反応 / 微細運動） 第4回 感覚の発達 （視覚 / 聴覚 / 嗅覚・味覚） 第5回 感覚の発達 （触覚 / 固有感覚 / 前庭覚） 第6回 言語・認知の発達 第7回 認知・社会性の発達 第8回 ADLの発達 （食事） 第9回 ADLの発達 （更衣 / 排泄 / 整容・入浴） 第10回 乳児期 （0ヶ月～6ヶ月） 第11回 乳児期 （7ヶ月～12ヶ月）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第12回 幼児期 第13回 学齢期 / 青年期 第14回 成人期 / 高齢期 第15回 まとめ
授業の進め方	パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを適宜使用する。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、必要に応じて実技やグループワークを行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書に該当箇所に目を通しておく。（各回 1 ～ 2 時間） 授業後は、教科書、テキストを関連づけて自分の講義ノートを整理する。 （予習復習を合わせて合計 6 0 時間）
教科書・参考書	【教科書】 笹田哲，イラストと動画で学ぼう！人間発達学，診断と治療社，2023． 【参考書】 岩崎清隆，標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野人間発達学第2版，医学書院，2017． 森岡周，発達を学ぶ～人間発達レクチャー，協同医書，2015． 林万リ，優しく学ぶからだの発達，全障研出版部，2011． 林万リ，優しく学ぶからだの発達Part2 運動発達と食べる・遊ぶ，全障研出版部，2015．
成績評価方法と基準	各授業後の小テスト（40％）＋最終回の授業における評価課題（60％）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーにおける質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行う。（各授業後に実施する小テストに質問欄を設ける予定）
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	リハビリテーションの領域では対象者の発達レベルや障害の原因を正確に評価する必要があります。人間発達学は他の専門科目の基礎となる科目であるため、知識として習得しておくことが重要です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1．各授業をオンラインもしくはオンデマンドで配信をする。 2．各授業後に課題を提示する。 成績評価方法と基準 各授業後に提示した課題：100%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	高次脳障害の作業療法
授業コード	AE318
英語名称	Occupational Therapy Theory for Higher Brain Functions
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	小橋 一雄, 工藤 美和
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	高次脳機能障害に関する、臨床像と生活障害を学習します。前期「作業療法評価学実習」で学んだ高次脳障害の方への評価法を基に、失行、失認、失語、注意障害、記憶障害、半側空間無視、前頭葉症状、構成障害をはじめとする様々な疾患・障害について評価から治療法まで総合的な支援法を学びます。高次脳機能障害と日常生活活動障害との関係を理解し、高次脳機能障害を有する症例の作業療法治療法の修得を目的とします。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員である小橋氏は、療養型医療施設、老人保健施設などに勤務し脳卒中、神経難病、認知症などの患者を対象に臨床経験を積んでいる。 担当教員である工藤氏は、回復期リハビリテーション病棟、介護療養病棟に勤務し、現在、東京都からの委託事業である「西多摩高次脳機能障害支援センター」にも所属し、地域に住む高次脳機能障害を抱えるクライアントの生活支援を通して臨床経験を積んでいる。 この科目では上記のように、日々作業療法を研鑽する作業療法士によって担当される。 この講義では日常生活に影響を及ぼす、高次脳機能障害の特徴に対する、評価及び治療体験を活かして講義・演習を行う。
到達目標	本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の4つを目標とする。 1) 高次脳機能障害について説明出来る 2) 高次脳機能障害の評価が出来る 3) 高次脳機能障害を有する症例のADL障害を説明出来る 4) 高次脳機能障害の作業療法アプローチを説明出来る これを通して、高次脳機能障害を抱えるクライアントに対する評価と治療方針を検討し、生活障害に対応することができるようになる。
計画・内容	1) 高次脳機能障害の概要（小橋：作業療法士） 2) 高次脳機能の機能局在と支配血管（小橋：作業療法士） 3) 注意力障害の作業療法評価（小橋：作業療法士） 4) 注意力障害の作業療法の実際（小橋：作業療法士） 5) 記憶障害の作業療法評価（小橋：作業療法士） 6) 記憶障害の作業療法の実際（小橋：作業療法士） 7) 言語障害（失語症）に対すりハビリテーション（小橋：作業療法士） 8) 半側空間無視に対する作業療法評価（小橋：作業療法士） 9) 半側空間無視に対する作業療法の実際（小橋：作業療法士） 10) 認知障害に対する作業療法評価（小橋：作業療法士） 11) 認知障害に対する作業療法の実際（小橋：作業療法士） 12) 行為・動作の障害に対する作業療法評価（小橋：作業療法士） 13) 行為・動作の障害に対する作業療法実際（小橋：作業療法士） 14) 社会的行動障害に対する作業療法（小橋：作業療法士）

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	1 5) 地域における高次脳機能障害者に対する作業療法士の関わりと実践 (工藤: 作業療法士)
授業の進め方	スライド、ビデオ、配布資料、教科書を使用し教授します。 高次脳機能障害の病態・評価・治療法を、ケース・スタディを交えながら講義を進めます。
能動的な学びの実施	授業は、体験学習、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなどを用いて、アクティブラーニング形式で、課題解決の方法を身につけていく。 授業の最初には、前回の確認テストを実施し、授業ごとの振り返りが出来るようにする。
授業時間外の学修	予習及び復習を含め、合計 60時間程度 の学外学習を行ってください。 学習は教科書を読む、インターネットを利用するなどして障害について調べておいてください。
教科書・参考書	教科書：高次脳機能障害作業療法学 改訂第3版 : 2022(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) 参考書：作業療法学全書作業治療学 5 高次脳機能障害 2011 高次脳機能障害マエストロシリーズ(4) リハビリテーション介入 2006 医歯薬出版
成績評価方法と基準	成績は、授業中に行われる小テスト40%、本試験60%とします。
課題等に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは、小テストの解説の際に全体に向けて行います。 必要に応じて、個別に行います。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	神経内科学・内科学・生理学等の基礎医学および作業療法評価法実習の高次脳障害部分の内容を習得していることが前提となります。授業への参加態度が学習の大きなポイントになります。授業時間内や課外での積極的な取り組みを期待します。適宜、講義で使用する参考書を指示します。 この科目では主体的に学び、積極的に発言し、他者と協力しながら学習を深めることが求められます。特に、作業療法教育では、認知領域(知識)、情意領域(態度)、精神運動領域(技術)の習得が不可欠であり、これら3つを意識して受講してください。 本講義は、すべての学生が学びやすい環境を維持しながら進行します。そのため、互いの学習を尊重し、積極的かつ協調的な姿勢で取り組むことが期待されます。授業内での発言や行動は、自身の理解を深めるだけでなく、他の受講生の学びにも影響を与えることを意識し、責任をもって参加してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合には、オンライン会議システムを用いて行う。資料及び教科書は事前に配布し、それに沿って講義を行う。なお、講義の最後には、小テストをgoogleフォームを用いて行う。 非対面授業の際にも成績は、績は、毎回の授業の小テスト20%、本試験80%とします。なお、小テストは、当日時間内に提出しなかったものについては、欠席扱いとする。